怪談

小林早苗

[テーマ]

お客さんに一緒に想像してもらう事を重視した芝居。役者の独り語りがポイントになる。

[登場人物]

A ボケ

B ツッコミ

二人はルームシェアをしている友達同士

男(最後だけ登場) 殺人鬼。マスク被ってる。

[場所]

室内。

[衣装]

ABは部屋着。Aはジャージ、Bはパジャマ風。

男は最後だけなので、基本衣装があればそれで OK。手袋と顔が隠れるマスク。ホッケーマスク的なもの。

[中道具]

- ・椅子2つ
- ・机。パソコンを置ければOK。

[小道具]

- ナイフ
- バナナ
- ・ノートパソコン

A暗転板付き

明転。

部屋でひとり試行錯誤するA。

- A うらめしや~…ちょっと古いかなこれは。あなたの後ろにアルパカの霊が…!むしろ見てみたいよなー。うーん。お前だー! (自信なさげに)
- B ちょっともう寝なよ。隣でうるさくされると寝れないんだけど。

- A ごめんごめん。あたしも寝たいんだけどさ。なかなか思いつかなくて。
- B なにしてんの?
- A 忘年会でやる怪談練習してんの。
- B は?なんでこの寒い時期に怪談なんかすんの?
- A 社長の趣味なんだよー。うちの社長ホントそういうの大好きでさー。今日急に社内 メールで「今年の忘年会では社員全員怖い話を披露すること!なおボーナスの査定 に関わります」って回ってきちゃってー。
- B うわ、こういうタイプのブラック企業もあるんだ…
- A でもなかなか思うように怖くならなくってさ。私怪談なんかやったことないよー。
- B ふーん。あんた昔から人前で話すの得意じゃないしね。
- A そうだ。ちょっとさ、あたしの怪談きいてくれない?
- B $\dot{z}-?$
- A で、客観的な視点で、気になる所があったら教えてよ?
- B しょうがないなー
- A よし、じゃ、いくよ。

「これは私が16歳の時に、深夜の自宅で体験した話なんだけど…

その日はちょうど夏休みの真っ最中で、たまたま私一人で家にいたのね。で、お風呂入って TV 見てたらもう深夜 2 時になってて。テレビもつまんないし、もう寝ようかな一なんて思ってたとこだったの。そしたらさ、台所から突然ゴトン!って、鈍い音が聞こえてきて。あれ? 誰もいないはずなのに。そう思ったとたん、

ドンドンドン! ドンドンドン! 玄関のドアが激しくたたかれる。

ドンドンドン! ドンドンドン! ドンドンドン!ドンドンドン!

いくら待っても、叩く音は鳴り止まない。いったいだれがこんな事を?そう思った 私は、なんとか勇気をふりしぼって、勢いよく玄関のドアを開けた!そこにいたの は…!

- B (聞きたくない! という素振りで耳をふさぐ)
- A 近所の人でした…!(ドーン)
- B ふつう! オチが普通すぎるよ! 結局、途中のゴトンって音はなんだったの?
- A ああ、台所においてあったスイカが落ちた音。
- A もう単なる世間話じゃん! 全っ然、怖くない! あーあ、聞いて損した。
- A そこまでいう事ないでしょー? 私心霊体験とかないんだからしょうがないじゃん。
- B 怪談は人から聞いた話とかでもいいから!
- A え、そうなの? じゃあちょっと見本みしてよ!
- B えー!? もー、しょうがないなあ。じゃあ、「これはあたしが友達から聞いた話 なんだけど」
- A ほうほう。
- B 「3年前のある夏に友達数人でバーベキューに出かけたらしいんだ。男2人に女2 人。川原でワイワイ肉食べて、暑かったからちょっと川に入ったりしてそこそこ盛

り上がって、

タ方そろそろ帰るかって事になって山道を車で走ってたんだって。 夏だってい うのにその日はなぜか陽が落ちるのが早くて、辺りはすぐ薄暗くなっちゃって。車 の持ち主の方の男の子は運転しながら"なんか不気味だな"って薄々思っていたら しい。」

- A いいね、雰囲気あるー。
- B 「で、本格的に辺りも暗くなってヘッドライトを頼りに車を走らせてたら、なんか 一台、後ろを走るスポーツカーがやたらとクラクション鳴らしてくるんだよね。(ク ラクションSE) おかしいなと思ったその子は助手席の友達に声をかけたんだって。 "おい、後ろの車なんか変だぞ"って。でも返事がない。それで友達の方を見ると、 真っ青な顔してガタガタ震えてる。

"どうしたんだよ"って聞くと"止まるな、絶対止まるな"って。さすがに怖くなって"なんだよ! わけわかんねーよ"とか声を荒げたら、後ろで寝てたはずの女の子二人が悲鳴をあげて」

- A "「きゃああああ"」(女の子の役をやる)
- B 「"どうした"って聞いたら、"上に何かいる"って言うの。"上?""トランクだよ! トランクの上"。とっさにバックミラーを見ると、白い着物の女が、後ろのトランクにしがみついていた…」

(SE: F-Y)

- A 「すると今度は知らないうちに足が引っ張られてるような感覚がして、下を見たらものすごい数の白い手が自分をぐいぐいひっぱってるー!!(ドーン)さらに窓を見たら、鬼のような形相のおばあさんが凄いスピードで道路を走ってるー!(ドーン)と思ったら、いつのまにかオカッパの子供が膝の上からこっちを見ているー!(ドーン)思わず"わあああ"、と叫んで前を見たら、前の方からボロボロの甲冑をまとった落ち武者の集団が、こちらに向かってザッザッザッザッザッ…」
- B 待った、ごめん止めて。ストップストップ!
- A 「ザッザッ…」(止められて)何?せっかくこれから盛り上がってくるところなのに…
- B いやあとからお化けを盛りすぎなんだよ!なんでこんな夢の共演、みたいになって んの!?
- A だってさ、ただでさえ怖いお化けがたくさん出てきたらそれはもう恐ろしい事になるでしょ。
- B むしろ逆効果だよ!全然怖くないわ!
- A えー…これはいけるなーと思ったのに…(しばし考える)よし。じゃこれはどうか

な?「ある時、都内某所で1組のカップルがアパートの一室で不可解な変死を遂げた。二人の体には複数の刺し傷があったが部屋は密室。これはその事件が起こった前日の出来事を再現したものである。」

- B 今度はテイストを変えてきたか。
- A この物語の主役は2人。彼氏 A さん"あーあ。折角の休みなのになんか暇だな。" その彼女 B さん"そうね。そういえば聞いた?近所に空き家があるでしょ。最近夜 になると人もいないのに窓から明かりが漏れてるんだって。" "へえ。おい、今夜 肝試しに行ってみるか""わたしもいっしょに、着いていきますよう!"」
- B 誰だー!最後のやつ誰だよ!
- A あ、最後のは、この話のマスコットキャラクターね。
- B いらないからそういうのは!(あきれて)もうつきあってらんないよーあたし寝る。 (椅子から立ち上がって)
- A あー、待った待った!ごめん私が悪かったから!次で決めるから!ラスト!ね!(PCを操作)じゃあじゃあ、こういうのどうかな?(Bにみせる)
- B 「この話を聞いた人間は、この登場人物とまったく同じ目に会います。これから話 す話は自己責任で聞いてください」あー、そういう出だしはベタだけど怖くていい ね。(やや投げやりに)
- A (PC を打ちながら話す) そうそう、これでね、社長を震え上がらせる話をつくるぞー! えーと、「ある夜、二人の女子が部屋で怪談話をしていました。二人は学生時代からの友人で現在ルームシェアをしています。時々喧嘩もするけど仲良しです」
- B ちょっとあたしたちのことじゃん。(笑ってしまう)
- A 「夜遅くまでああでもないこうでもないと夢中になっていましたが、困った事に一 人が玄関の鍵をかけ忘れていましたー。」
- B まああんたらしいね。(ちょっと機嫌が直る)
- A 「しかし盛り上がって話していたせいか、何者かがそっと入ってきたことに気が付きませんでした」(マスクをつけた男登場)
- B えー、それはないでしょー。いくらなんでもあたしは気づくって。
- A 「その男は何も知らず楽しく話している二人の背後で、ポケットからナイフを取り出し…」(男も同じように行動する)
- B いいね怖いね(笑)
- A えー。「ナイフをとりだし…」あー、ナイフか。ナイフねー。なんかありきたりじゃない?

(男、え?っという感じでAを見る)

- B 別にいいじゃん。リアリティあるし。
- A いや、なんか良くあるっていうか。インパクトがなー。もうひと押しって感じなん だよねー。
- B いや、いいと思うけど?
- 男 (Bを指さし、ですよね、という仕草)

- A あ! よしこれだ! 「男はポケットに手を入れると室内灯に照らされてピカピカと光る…」
- B うんうん (男も同じようにうなずく)
- A バナナを頭上に高く掲げ…
- B なんでだよー! なぜバナナ!
- A もちろんカチカチに凍らせたやつだよ?それをこう、鈍器として。
- B いいよそういう説明は! もうなんでそこでそういうオリジナリティ出しちゃう かなー(呆れ果てて頭を抱える)
- A え? ダメ? ダメかなあ?

(男、だめだろ!という感じのリアクションをAにする)

- B (説教をしようとして) いやダメっていうかさ…
- A 使ったバナナは食べてしまえば、凶器は消失、迷宮入り!
- 男 (いやいやいやそれはおかしい、という感じで、BといっしょにAに向かって 抗議する動き)
- B いやそうじゃなくて…もう、だから! (一気になげやりに) あー、もう、それでいいよ…
- 男 $(B \text{ o}x \text{ i} \text{ v} \text{ o} \text{ c} \text{ o} \text{$
- AB (ほらやっぱり、えーなんで、とちょっと話した後ぴたりと止まり、二人顔を見合わせ、同時に背後の男に気が付いて振り返る、同時にうわーといった悲鳴を上げる。)

(男はバナナを指さしてこれなんとかして、的なリアクションを二人にしている。ABの悲鳴が聞こえながら暗転するような形に)

暗転

完